

Doc. 2941 Evid.

Folder 12

(40)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2941

30 Dec 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Booklet published by the Headquarters of the Greater Japan Young Men's Party (SEINEN-TO) Tokyo, entitled "Outline of Activity"

Date: 20 Oct 1940 Original () Copy (x) Language: Japanese

Has it been translated? Yes (x) No ()

Has it been photostated? Yes () No (x)

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL:

PERSONS IMPLICATED: HASHIMOTO, Kingoro

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Preparing Public Opinion for War

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

This book contains the declarations and assertions of Col HASHIMOTO, Kingoro, regulations of the party which he set up, and address of instruction by HASHIMOTO in which he encouraged the members of the party to exert themselves in strengthening the I.R.A.A. and reported on the activities of the party.

The appendix supplies a chart showing the increase in the number of party members, and lists giving the present and future branch offices of the party.

Analyst: E.T.GARDEN

Doc. No. 2941

Proj. No. 302

2A

I

2941

The gist of activities
for the TV (All-Japan meeting)

to be held on 20 Oct. 1940
at Hibiya Public Hall, Tokyo

published by the headquarters
of the Great Japan Young Men's Party
on 20 Oct 1940

Declaration and assertion of HASHIMOTO Kingoro
Regulations of the party (pp 4-6)

Address ^{instruction} of the president, HASHIMOTO Kingoro

He encourage the members of the party
saying that the time for reformation is come,
and that they must exert themselves in
strengthening the I.R.A.A. (pp 7-14)

Report on the recent activities of the party

(pp 15 - 18)

2/

Appendix

(PP 15 - 67)

a chart showing the increase in the number of the party members.

a list of branch offices

a list of branch offices which would be opened.

Proj. No. 302

2 B I

HASHIMOTO Kingoro Declaration

(Principles of the national ^{political and} [social] order for enabling Great Japan to make a big strike)

published by the Dai-Nippon Seki-sei kai

on 17 Oct. 1936

3

HASHIMOTO Kingoro Declaration is
amplified in this booklet

Proj. NO. 302
D.C. IV

Comid Reader for the New Social Order

published by the printing
office of the Dai-Nippon Teikisei^{hai}
on 30 Dec. 1940

With a number of comids, the KONOYE Declaration
and the new political and social order
he advocates is illustrated.

I

2941

第四回全國大會

活動要綱

Proj. No. 302

S. A. No. _____

Sack No. _____

Item No. 2a

大日本青年黨

大會次第

第一日

大會開式

- 一、皇居遙拜 (全員起立)
- 二、皇軍將士感謝默禱 (全員起立)
護國英靈
- 三、國歌奉唱 (全員起立)
- 四、宣言朗讀 (黨員起立)
- 五、統領訓示 (黨員起立)
- 六、統領指示 (黨員起立)
- 七、答辭 (黨員起立)
- 八、指示

第一、時局下我黨ノ任務

第二、組織要綱

第三、活動要綱

九、黨狀報告

十、祝辭

十一、黨歌合唱 (黨員起立)

十二、聖壽萬歲 (全員起立)

十三、大日本青年黨萬歲 (黨員起立)

大會閉式

地方黨狀說明

視閱及行進

宮城遙拜

英靈感謝並戰捷祈願式

第二日

全國代表者會議

中央政治局會議

第四回全國大會

活動要綱

日時・昭和十五年十月二十日

會場・東京日比谷公會堂

第四回全國大會活動要綱目次

一、宣言主張	四
二、本則	六
三、黨員守則	六
四、組織規約	六
五、統領訓示	七
六、統領指示	九
七、指 示	一〇

第一、時局下我黨ノ任務	一〇
第二、組織要綱	一一
第三、活動要綱	一二
八、黨 狀 報 告	一五

附 錄

一、府縣別黨員增加表	一〇
二、聯合支部、支部、支部準備會、分會、連絡員一覽表	一一
三、支部結成ニ關スル注意	一六
四、黨歌、及ヒ行進歌	表紙三

宣言

世界ハ今ヤ、唯物的自由主義制度ノ行詰リニヨリ、茲ニ一大更新ヲ必要トスル歴史の轉換期ニ直面セリ。然ルニ世界各國ハ、何レモ舊國家生活姿態ヨリ未ダ完全ニ更生シ得ズ、其實力相伯仲シ、嶄然他ニ光被スルニ足ル體制ヲ有スル國家無シ。此時代ニ於テ一步ヲ先ンジ、優秀ナル國家體制ヲ確立スルモノハ、正ニ世界ニ光被スルヲ得ベシ。

惟フニ八紘一字ノ顯現ヲ國是トスル我國ハ、即時其本然ノ發揮ニ依リ國民ノ全能力ヲ舉ゲ天皇ニ歸一シ奉リ、物心一如ノ飛躍的國家體制ヲ確立シ、光輝アル世界ノ道義的指導者タルヲ要ス。右宣言ス。

主張

一、精神的飛躍 我國體ノ尊嚴ハ無上絶對、普遍的真理ノ顯現ナルコトヲ國民ニ感得徹底セシムルト共ニ、此主張ヲ以テスレバ、當然世界ノ道義的統一ヲナシ得ベキ確信ヲ信仰のナラシメ、且ツ現唯物的自由主義機構ノ下ニ萎微シツ、アル我民族ノ純正明朝ニシテ不偏中庸、睿智的・武勇的・仁義的ナル高級特質ヲ、進歩的形態ニ於テ再生堅持セシムルハ勿論、益々之ガ助長發達ヲ策シ、精神文化ノ中

樞トスベシ。

二、經濟的飛躍 經濟ハ之ヲ營利主義ノ桎梏ヨリ開放シ、資源勞力及技術ヲ價值ノ根源トシ、國家之ヲ統制管理スベシ。生産ニ於テハ勞力、資源ノ存スル限り、調整シタル國家企業ヲ最大限ニ擴張シ、國民生活ヲ極度ニ向上セシムルヲ第一義トシ、飛躍的増産ヲ敢行スベシ。勞力ノ能率ヲ最大限ニ發揮スル爲、近代科學ヲ極度ニ利用スベシ。貨幣ハ資源勞力技術ニヨリ生産セラル、價值質量ヲ其準備實質タラシメ國家之ヲ發行シ、單ニ交易的價值ヲ有セシムベシ。

三、外政的飛躍 我版圖内ニ於テハ緊密ナル有機的體制ノ下ニ各民族ノ特質ヲ發揮セシメツ、制限的自治ヲ行ハシメ、全體的ニ民族文化ノ向上ヲ圖リ、皇化ノ實體化ヲ行フベシ。此方式ヲ以テ逐次世界ニ及ボスベシ。

四、軍備的飛躍 皇業恢弘ノ實行ニ對シ、主義ヲ異ニスル諸國家妨害ヲ爲ス場合、隨時之ヲ克服シ得ルノ絶對的軍備ヲ完成スベシ。軍備ノ主體ハ無敵空軍トシ、軍ノ航空機タルノ觀念ヨリ脱却シ、國家國民ノ航空機タルノ觀念ニ至ラシムルコト、恰モ古來我國民ノ日本刀ニ對スル信賴ト同様ナラシムベシ。

五、政治的飛躍 政治ハ皇業恢弘ノ完成ニ全能力ヲ集中シ、何等ノ徒勞ナカランムル爲、之ヲ完全ニ信奉スル全版圖ノ同志ヲ以テ其指導ニ當リ
天皇ニ責ヲ受クベシ

本 則

- 第一條 本黨ハ大日本青年黨ト稱シ本部ヲ大日本東京ニ置ク
- 第二條 本黨ハ皇業恢弘ニヨリ道義世界ヲ建設スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本黨ハ黨ノ目的實現ニ獻身奉公スル同志ヲ以テ組織ス
- 第四條 本黨ハ統領コレヲ統轄ス
- 第五條 本黨ハ黨務執行ノタメ別ニ細則ヲ定ム

黨員守則

- 一、黨員ハ宣言、主張ノ實現ニ挺身シ他ヲシテ同化セシムベシ
- 二、黨員ハ忠節、禮儀、武勇、信義、質素ヲ旨トシ國民ノ儀表タルベシ

組織規約

- 第一條 本黨ハ黨活動統制ノ爲メ支部、聯合支部及ビ分會ヲ設置ス
- 第二條 支部組織ノ地域ハ市、郡單位、區制ヲ數ク都市ニ於テハ區單位トス、但シ特殊ナル地區ニ就イテハ別ニ本部之ヲ定ム
- 第三條 一府縣内ニ數個ノ支部アル場合ハ府縣聯合支部ヲ設置ス
- 第四條 支部區域内ニ於テハ地區ヲ分割シ分會ヲ設置ス
- 第五條 支部聯合支部及ビ分會ハ本部ノ指示ニヨリ設置スベシ
- 第六條 支部長聯合支部長及ビ分會長ハ各組織ノ推薦ニ依リ統領之ヲ任命ス
- 第七條 支部、聯合支部及ビ分會ノ規約ハ本部ノ認可ヲ得テ實施スベシ

訓 示

統領 橋 本 欣 五 郎

本日茲ニ第四回全國大會ニ臨ミ、勇氣凜然タル黨員諸君ノ壯容ニ接シ、欣快ニ堪ヘズ。

惟フニ、立黨茲ニ四年黨宣言ニ道破セル眞理ハ、赫々トシテ偉大大日本ノ前途ヲ照破シ、其ノ國策主張ハ恰モ豫言ノ如ク盡ク適中シ、時代轉換、世紀建設ノ最高指導標トシテ、今ヤ全國民ノ歸趨シ依據スル所ナリ。實ニ世紀ノ偉業ヲ完成スベキ重責ハ我黨員ノ双肩ニカカル。最高度最高級ノ新體制ノ建設ハ、我黨宣言ノ徹底實現ニ依ルニ非ズンバ斷ジテ期スベカラズ。

我黨ハ今ヤ全國ニ五萬ノ精銳純烈ナル黨員ヲ擁シ、正ニ革新勢力トシテ嶄然他ニ匹儔スルモノナシ。

舊勢力ハ畏怖シ、新興國民ハ翕然白日赤誠旗ヲ仰グ。正ニ之黨員諸君ノ熱血迸ル苦闘ノ結晶ニシテ、皇國ノ爲メ余ノ深ク感謝スル所ナリ。

黨員諸君！ 時代ハ來ル、革新ノ絶頂ハ近キニ在リ。我黨ノ偉業ノ成否ハ今ナ

リ猛然舊勢力ノ打倒ニ邁進セヨ。忠烈ナル國民ノ總意總力ヲ我黨ノ旗下ニ結集セヨ。一億總進軍ノ中核指導體トシテ、各黨員ハ益々反省ト研鑽ヲ積ミ、組織力ヲ充實シテ眞ノ魂ノ結合ヲ練成シ、國民ノ儀表トナリ先達トナレ。澎湃タル大政翼賛運動ノ完成ニ努力シ、進ンデ其ノ中核指導力ヲ把握セヨ。

之立黨以來ノ我等ノ念願ニシテ、皇國ニ對スル忠誠ヲ盡ス所以之ヨリ大ナルハナシ。黨員諸君！舉ツテ革新ノ大業ニ邁進セヨ。

左ニ黨員ノ信條ヲ示ス。

- 一、純眞忠誠ナル青年ノ、魂ノ結合ヲ以テ組織ノ眼目トセヨ。
- 二、訓練ニ全力ヲ傾倒シ、眞ノ革新ノ指導者タルノ氣魄信念實力ヲ練成セヨ。
- 三、國內ノ狀勢ハ刻々急迫ヲ告ゲ、一大危機ノ到來近キニ在リト豫想セラル。黨員ハ此ノ危機ニ際シ、國家ヲ救ヒテ起ツノ氣魄ヲ涵養スルト共ニ、之ガ準備ヲ怠ルベカラズ。
- 四、高遠ナル民族精神ノ炬火ヲ捧持シ、之ヲ宇内ニ顯揚スルハ我黨ノ任ナリ。躍々タル魂ヲ練成作興セヨ。

五、宣言主張ニ反スル言動ヲ爲スモノ、或ハ無爲只員ニ備ハルモノ、如キハ黨ノ光輝アル歴史ヲ汚シ純烈ナル氣風ヲ損フモノナリ。ヨロシク肅正スベシ。

右訓示ス

統領指示

既ニ大政翼賛會ノ成立ヲ見、我國政治ノ方向決定セラレタルハ、邦家ノ爲慶賀ノ至リニ堪ヘズ。

吾人ガ立黨以來日夜奮闘シ來リタルハ、一ニ此目的達成ノ爲ニ外ナラズ。依ツテ我黨員ハ極力大政翼賛會ノ中核的分子トナリ、大政翼賛會ノ強化ニ努力スルヲ要ス。

茲ニ我黨ハ大政翼賛會ノ充實強化ニ即應シ、近キ將來ニ於テ進ンデ政治的團體ヨリ思想團體ニ改編シ、愈々陣容ヲ整備シテ君國ノ爲メ活動セントスルノ企圖ヲ有ス。

指示

第一、時局下我黨の任務

立憲以來、我黨の主張し來れる飛躍的國家體制の確立は、内外情勢の切迫と共に、今や全國民の澎湃たる要望となり、近くは大政翼賛運動の發展となり、我黨の主張漸く實現の緒に就かんとす。

然れども未だ國內には、此の偉大なる時代の轉換に盲目にして、或はこれを白眼視し、却つて反動的態度に出で、舊體制を維持せんとするもの多く、或は一部には、新舊勢力の激突より來る混亂を豫想し、この危機に乗じて革命的行動に出づべく、潜行的にこれを準備しつゝあるもの無きに非ず。

斯くして、新體制の成立には、前途尙幾多の重疊せる難關の到來すべきこと明かにして、これを克服するに非んば、偉大なる昭和維新の實現は、斷じて期待し得べからず。

斯る情勢に對應し、我黨の任務愈々深刻重大なり。即、新體制建設の中核たるべきものは、我黨の指導精神並に組織力を外にして、斷じて之を求め得べからず。實に我黨は、新體

制建設の先驅者たるの輝ける歴史を有すると共に、更にこれが完成の重責を双肩に擔へることを自覺せざるを得ず。斯くして、我黨の活動方針も、その任務の重大化すると共に、幾多重點を變更せしむべきものあり。この趣旨に基き、こゝに其の要點を指示して、將來進むべき方途を明にし、國家の爲に忠節を勵むに膠り無からん事を期す。

第二、組織要綱

一、方針

イ、黨宣言に信仰的ならしめ、宣言を中心として、黨員の血盟的團結を強固にす。

ロ、眞に宣言の信仰者を獲得す。

ハ、特に青年指導者級の獲得に重點を置く。

ニ、黨活動は訓練に主力を置き、之と共に黨を擴大す。

ホ、黨員の獲得は質に重點を置き、其結果として數を得る如く努力す。

ヘ、組織力を國民生活の中に浸透せしむ。

二、組織目標

イ、國民各層に於ける、舊勢力に染まざる純眞なる青年層。

ロ、強烈なる信念を有し、純正なる翼賛體制の樹立を實踐しつゝある無名の先覺分子。

ハ、翼賛體制の一翼たるべき左の諸團體に於ける革新分子、産業組合、産業報國會、農會、商工組合の如き産業團體、市町村會、常會、隣組等の地域團體。革新なる宗教教育藝術學術の各文化團體。

青年團、壯年團、青年學校、在郷軍人會の如き訓練國防團體等。

三、組織擴大

イ、府縣内に三つ以上の支部ある地區は直ちに聯合支部を結成す。

各支部準備會は速に規定黨員數を得て支部の結成を行ふ。

規定員數を有する地區、職場に於ては、分會を結成す、未組織地區に對しては隣接黨組織に於て、組織の餘力を以つて極力組織化に努む、本部は極力之を指導助成す。

ロ、現在の黨區の運用は益々之を善用し、尙ほ黨區内に於て二、三縣毎に連絡會議を設けて之が運用を効果的な

らしむる如く努力す、本部はこれを指導育成す。

ハ、赤誠團の整備

赤誠團は黨の精華にして、且推進力たり。仍て大に之を整備し、黨の中核體たらしむ。各地區組織に於ては、次の「赤誠團整備要綱」に基き、直に編成組織を行ふべし。

赤誠團整備要綱

1、各支部に支部赤誠團を設け、各分會に赤誠班を設く。

2、特に數個の支部ある都市に於ては、聯合赤誠團を置き、府縣には聯合赤誠團を設置せず。

3、赤誠團は黨員中の行動力ある概ね三十才以下の青年を以て組織す。但し、幹部は年齢の制限なし。

4、支部赤誠團長は、支部長の推舉により、統領之を任命す。

5、聯合赤誠團長は、府縣聯合支部長の推舉により統領之を任命す。

6、赤誠班長は、分會長の推舉により、支部赤誠團長、又は聯合赤誠團長之を任命す。

7、赤誠團員は、班長の具申により、支部赤誠團長又は聯合赤誠團長之を指名す。

8、支部赤誠團長、聯合赤誠團長は、夫々赤誠班長を統

率す。

四、訓練組織の整備

イ、要旨

赤誠團員及び新たに入党し来る青年の黨員の訓練に特に重きを置き之により黨活動の中堅者を養成す。今後の黨活動の中核は主として其等赤誠團員及び青年を以て構成す。

ロ、訓練方針

訓練の第一義は、日本精神の徹底を主とする思想訓練とし之れを信仰的ならしめ、更に組織訓練、集團行動訓練、實務訓練、調査研究を行ひ、何れも實生活に即應し、生活即訓練を建前とす。

ハ、訓練機關

- 1、中央に中央訓練所を設く。
- 2、中央訓練所長は黨員中より統領之を任命す。
- 3、中央訓練生は、全國黨員中より選抜指名す。
- 4、府縣聯合支部に、府縣訓練所を設く。
- 5、府縣訓練所長は、府縣聯合支部長の推舉により、統領之を任命す。
- 6、府縣訓練生は、聯合支部所屬各支部より選定す。
- 7、支部及分會に移動訓練所を設く。

8、支部分會の訓練生は支部分會内より選定す。

9、府縣以下の訓練所の經費は、原則として各地區の負擔とす。

10、中央及府縣訓練所に關する規則及び移動訓練所規則は別に之を定む。

五、宣傳調査

中央に宣傳調査部を置く。其の任務次の如し。

イ、遊説機關を置き、全國を巡迴遊説す。

ロ、機關紙、ポスター、パンフレット等を發行す。

ハ、黨活動に必要な諸般の調査研究を行ふ。

第三、活動要綱

一、大政翼賛運動に對する協力

イ、大政翼賛會の機關に積極的に参加す。

ロ、大政翼賛會々員に中堅黨員を加入せしむ。

ハ、大政翼賛會が、舊來の精神總動員式に墮し、又は既成勢力によりて占據さるゝことなき様、特に嚴重に監視し、又かゝる場合には、猛烈にその淨化運動を起す。

ニ、各地區に於ける支部、分會等に於ては、黨組織を中核とし、大政翼賛市町村内協議會、職場協議會等を行ひ、眞に大政翼賛會幹部たるに相應しき人物を選出し、之を黨

局に進言、採用せしむ。之が爲に、常會、町内會、産業報國會等の組織を活用するを要し、飽迄黨の組織力を活用し大政翼賛會をして國民の全分野に滲透せしめ、確固たる指導力を得る如く協力すべし。

府縣聯合支部は府縣當局と協力、大政翼賛會府縣支部の充實に協力す。

右の場合、何處迄も大政翼賛會の正常なる發展を期して活動し、黨がその中核となること、眞に會を發展せしむる所以を強調し、毫も他と對立することなき様特に留意するを要す。

二、民族精神作興運動の展開

我民族の使命及び實力の偉大なることを國民に感得徹底せしむると共に、國防國家體制の確立、世界新秩序建設を達成すべき雄大な文化の創造と、何物をも克服する純烈なる氣魄に燃ゆる民族精神と、鐵石の如き體力の練成を目指す一大國民運動を展開す。その要目は次の如し。

イ、國體に基く最高級最優秀の世界的思想體系を確立し、之が徹底普及の爲一大國民思想統一運動を行ふ。

ロ、文學、演劇、詩、繪畫、彫刻等の原動力に民族文化の精髓を打込み、雄渾なる民族藝術及皇武を創作普及し國民に希望と理想を與へ、民族精神を灼熱昂揚せしむ。

ハ、武道體育等を、眞の我國固有の道によつて改革し、思

想藝術宗教等と相俟つて莊嚴偉烈なる民族精神を練成す。

ニ、皇道に基き、一切の既成宗教の教義及び宗團を改革し、雄大清明なる民族宗教を確立し、國民精神の統一及び恢弘に努む。

ホ、民族厚生運動を起し、國民體位の向上、疾病の根絶、人口の増加を圖る。

ヘ、科學の研究普及、技術の練磨、經營方法の合理化等を目的とする民族科學確立運動を行ふ。

三、廣義國防體制に對應する新生活體制確立運動の展開

昂揚灼熱せる民族精神の下に於ける、一切の生活の自衛規正を奨励し、特に從來の如き消極退避的方法を排除す。其の實行要目次の如し。

イ、特に東亞皇化國の確立を目標とし、戦時下に於ける新生活體制の樹立を期す。これが爲に赤誠團を動員し、戦時國民生活體制建設の實行部隊とし、各々其の職場を通じ、翼賛の任務を達成する様指導に當らしむ。

即ち中小商工業者に對しては、それらが自ら産業再編成運動を敢行する様指導し、産業報國會に入りては、勤勞者技術者經營者一體となり、産業經營を國家目的遂行に向はしむる如く指導し、農村に於ては、組織の増力化、配給の適正化、生産増加の實行を促進する如く指導す。

又聞取引の制裁禁壓、遊閑者の鞭撻と之が國家的任務への動員、出征者家族及び遺家族の精神的物質的援助等を率先實行す。

ロ、座談會、研究會等を頻繁に行ひ、時局の真相、國民としての覺悟、國防國家建設の方法等の啓蒙宣傳を行ふ。

ハ、軍隊的集團訓練を行ひ、心身を鍛鍊し、統制ある行動に慣熟せしめ、他に範を示す。

ニ、大政翼賛會の淨化充實を圖る。

ホ、防空防諜の如き國策がやゝもすれば、形式的に流れ、實効少なきを以て、自ら國民としての立場より眞の防空防諜等の方法を研究し、率先之が實行に當る。

黨 狀 報 告

統領歸還後最初の第三回黨大會は、日比谷原頭二千五百の黨員を集結し、革新日本建設の大旗を、市民驚異の中に振り翳したのであつたが、而も一般世評に上らず、殆ど之に無關心なるが如き状態、其が猶昭和十四年下期に於て我黨に與へられたる環境であつた。然し、我黨は、統領の熱血と黨員の努力とに依り、環境の不利を克服しつゝ、急速に、馳て奔流の如く、其黨勢を擴大せしめたのである。

此飛躍的黨勢擴充の一ヶ年を回顧し、先年と比較し、最も特徴的なりと思はるゝ點は、一つに黨勢の政界上層に對する影響力の増大であり、二つに黨活動の國民下部組織への浸透である。

先年度迄、要請、講演、ポスター宣傳等を主力として闘ひ來つた黨活動は、今年度に入つて、統領の新體制準備會準備委員就任より、大政翼賛會常任總務就任となり、統領の一言一行は、偉大日本建設への炬火として、一切の舊勢力に絶大な脅威を與へ、統領を中心とする五萬黨員の結集力は、革新日本への推進力として、衆目の認めざるを得ないまでに到つた。

と同時に、黨勢は浸々乎として縣に、郡に町に村に及び、産業團體、文化諸團體の中核指導力として、深く國民下部組織に迄喰込み來つたのである。

斯の如く我黨勢力は上層に、下層に浸潤し來つたのであるが、今年を回顧し、黨狀の概貌を示す事とする。

一、内政的方面

1、皇軍將士感謝慰問
昨年十二月中前記週間を設け、各地區毎に特色ある事業を展開した。

2、食糧問題

旱魃による米の大減收、而も事變に依る消費増は、食糧問題を惹起し、世相險惡となれるに拘らず、政府に何の根本策もなく、徒らに國民不安を増大せしめるのみであつた。我黨は逸早く此問題を採り上げ、政府に對し食糧確保の根本策樹立を要望し、又其と睨み合せて、肥料増産、配給規正の問題を提げて全國に活動を繼續した。

3、國民組織確立運動

國民組織の確立は、立憲以來我黨の標榜し來つたところであるが、國內各層に漸く之が論ぜらるゝに至り、我黨は、更に力を之に注ぎ、真正なる國民組織の形態を示し、之が徹底につき黨員の活躍を得たのである。

4、金融産業再編成の促進

金融、産業財閥は、革新勢力の脅威に依り、止むを得ず新經濟體制への漸進的歩調を取ると雖も、動もすれば馬脚を露はし、却つて之が障害となる状況であつた。

我黨は斯る分子に對して、言論、機關紙を通じて、一日も早く營利追求思想より蟬脱せん事を要求しつづけた。

5、政黨解消と新黨運動

國民の舊政黨に對する不信の増大は流石強心臓なる既成政黨者流を以てしても、其城塞を守る事を得せしめず、終に崩壊過程を辿らしめるに到つた。

而し、解黨より近衛新黨への動向に於て、幾多不純なる素因を觀取せる我黨は、嚴に其行動を監視し其等分子の暗躍に對する一大脅威となつたのである。

6、大政黨贊成運動に對して

政治新體制の完成は、我黨の最も希求するところにして、其意義に於て、統領は準備委員より、更に大政黨贊成會常任總務となられ、やゝもすれば官僚化し、舊勢力の蠢動する中に

於て、毅然として其主張を貫ぬき、日夜萬全の努力を續けて居らるゝのである。

二、外政的方面

我黨は、常に外交方向の歸趨を見通し、早くより、南進策の採用、英國勢力の東亞よりの驅逐、日獨伊樞軸の強化、東亞プロックの結成等を、目標として閉ひ來つたが、今春、淺間丸臨檢事件起るや、又々猛烈なる排英運動を行ひ、六月に入り、「東亞新秩序建設國民運動」を展開し、所謂不介入方針一擲、日獨伊樞軸の強化、亞細亞人の亞細亞建設のスローガンを掲げ、全國津々浦々に迄論陣を張つた。

更に八月、「排英國民運動」を起し、政府を鞭撻し、國民を奮起せしめて、愈々我外交轉換に拍車をかけたのである。

昭和十五年九月二十七日、日獨伊三國同盟締結に關する大詔發せられ、國民の待望久しかりし、日獨伊三國同盟締結さるゝや、我黨は年來の主張の實現なるにより、之に萬腔の贊意を表すると同時に、愈々國內體制革新の急務なるを痛感し、而して之が推進力としての黨の責務の益々重大となれるを深く自覺したのである。

而して、又此の條文をして、死文に終らしむる事なく、之を活用し、愈々對米決意を固くし、蘇聯との國交を調整し、

東亞皇化圈確立に邁進せんとしつゝある。

三、黨内部圖狀況

1、組織

寧日なき統領の活躍と、各地區黨員の猛闘は、國內狀勢轉換の好機に乗じて、黨勢の飛躍的増大を招來し、殊に六月、「飛躍的組織擴充計畫」を樹立し、府縣聯合支部、支部、支準に活動の詳細に渉る指示を與へ、一齊に擴充運動を開始せしめるや、其成績大いに擧つたのである。

又、時局に於ける婦人の役割の重要性に鑑み、婦人赤誠團の結成に着手し、多數の入團者を獲得した。

更に又、産業團體内の國民運動指導の爲に、職場組織の擴充に努め、之又相當の成果を收めた。

2、訓練方面

黨勢の躍進に對應し、黨活動中核分子の訓練に努め、講演會、座談會等を開催して思想訓練を爲し來つたが、別に又、各地方毎に講習會を開催し、中堅黨員の信念を不抜にし、行動の●練を爲した。

(イ) 鴻之巢訓練農場講習會

五月六日より十二日迄千葉縣同農場に於て、

(ロ) 富士修養農場講習會

七月二十五日より八月三日迄同農場に於て、

(ハ) 九州地方講習會

六月十一日より十三日迄福岡縣若松市に於て、

(ニ) 近畿地方講習會

七月八日より十日迄比叡山に於て、

(ホ) 東北地方講習會

九月六日より九月九日迄十和田湖畔に於て開催し、猶又各聯合支部、支部等に於ても、夫々講習會が催され、中

堅黨員の育成に努めたのである。

3、本部機構の充實

黨勢の躍進と黨務の複雑化とに對應し、本部機構を、政治局と事務局に別ち、

(イ) 事務局は、之を總務、組織、教育宣傳の三部制とした。

(ロ) 中央政治局は、黨の政策、組織擴充方策、黨の財政計畫等の案件を審議立案し、統領の裁決に資する爲に置かれ、統領の諮問機關として其機能を發揮する事となつた。

4、會議

(イ) 政治局會議

前述の政治局會議は、第一回會議を六月八日に開催し、第二回會議を八月三十一日に開き、各々重要な案件に就いて、統領の諮問に答申した。

(ロ) 支部長會議

先づ七月十四日、日本青年館に於て開催され、「黨組織飛躍的擴充計畫」に就き指示が與へられ、更に九月二十八日一ツ橋教育會館に於て、第二回支部長會議が開催され、大政翼賛會運動に關する統領の訓示があり、組織部よりの方針指示があつた。會する者二回共に二百餘を超え、黨勢の飛躍的擴充に感激新たなるものがあつた。

5、建川顧問大使閣下壯行會

建川顧問駐蘇大使の大使に就かれ、御赴任さるるに先立ち、九月二十八日午後六時より、九段軍人會館に於て、閣下の壯行會を開催し、統領の出征中、統領代理として靈塚せられたる御勞苦を謝し、壯途を御祝ひし、其大任の成就を御祈り申上げた。出席者二百七十名非常な盛會であつた。

以上黨狀の概要を述べたが、其活動、機構を詳細に涉つては説き得ない程、黨活動は頻繁熾烈となり、組織は擴充せられ、機構は充實し來つたのである。

我々は、此結果を透して、統領を中心とし、凡ゆる障害を克服し續けた全黨員の、血のじむ努力をはつきりと見る事

が出来る。

今や我が日本帝國は民族試鍊の重大時期に直面した。而して我黨の任務は益々重い。一年を回顧し、將來を洞察し、五萬全黨員は火の丸となつて、天皇歸一の大道を邁進しよう。

附
録

府縣別黨員增加表

自昭和十四年十一月十八日
至昭和十五年十月十日 現在

地區名	新黨員	地區名	新黨員	地區名	新黨員	地區名	新黨員
東京	二、四一四	愛知	五二二	青森	一〇二	滿洲	二六
兵庫	一、四五六	山梨	四六二	朝鮮	九九	大分	一九
岐阜	一、三四八	富山	三八二	三重	七〇	栃木	一五
岡山	一、二〇五	神奈川	三七一	和歌山	六八	鹿兒島	一四
京都	一、一五五	熊本	三三二	臺灣	六八	愛媛	九
靜岡	一、一一五	茨城	二八五	宮城	六二	米國	七
千葉	九、九三	海洋	二一三	支那	五九	宮崎	七
福岡	九八	福井	一九八	北海道	五六	關東州	六
石川	九四七	山口	一八九	山形	四三	長崎	四
滋賀	八一	新潟	一七五	埼玉	四二	鳥取	一
群馬	六五五	高知	一五八	福島	三九	島根	一
大阪	六三二	香川	一五〇	廣島	三六	大連	一
長野	五六一	岩手	一五〇	佐賀	三五	樺太	一
德島	五五四	秋田	一一二	奈良	二八	新黨員總計	一九、四二九名

聯合支部一覽表

結成年月日	聯合支部	聯合支部長	聯合副支部長	事務長	事務所所在地
一四、一、一五	靜岡縣聯合支部	稻垣直文		中野 豐資	靜岡縣富士郡大宮町
一四、六、一五	京都府聯合支部	支部長代理 若松華瑤		工藤清四郎	京都市上京區平野島居前
一四、一〇、一七	東京府聯合支部			川人信正	東京市澁谷區櫻田一ノ一二五
一五、二、一四	千葉縣聯合支部	原 德治	横尾 豊	建部 恒三	千葉縣君津郡木更津町
一五、六、一〇	岐阜縣聯合支部	三浦 正夫		沼本 清	岐阜市二番町
一五、七、一	岡山縣聯合支部	牧野 融	後藤馨司男	松井 亮一	岡山市小橋町
一五、七、七	兵庫縣聯合支部	吉田 榮一	豊田 昌造	小館長右エ門	神戸市神戶區山手通花隈三一七
一五、八、八	岩手縣聯合支部	菱谷 敏男	鈴木 信	中根 康博	盛岡市菜園一三ノ七二
一五、八、二五	滋賀縣聯合支部		國富八尺麿		大津市上北園町四一
一五、八、三〇	石川縣聯合支部	安達 十六			金澤市三社山田町、瀧内林松方
一五、九、一五	愛知縣聯合支部	竹下 傳吉			名古屋市東區石神堂町一五
一五、九、二七	新潟縣聯合支部	支部長代理 河野利江			新潟市寄居町
一五、一〇、六	山梨縣聯合支部	支部長代理 林貞夫			甲府市錦町一一

一五、一〇、一二	福岡縣聯合支部	自念春次郎		高次 昇	門司市旭町一丁目
一五、一〇、一五	群馬縣聯合支部	佐藤 賢	眞木孝次郎		高崎市宮元町四

支部一覽表

(第一黨區)

結成年月日	支部	支部長 又八代表者	副支部長	事務長	事務所所在地
一一、八、一	猿島支部	落合 和吉		篠崎 源六	茨城縣古河町
一一、一〇、三	芝 支部				芝區濱松町二ノ一
一一、五、一四	甲府支部	林 貞夫	芦川長太郎		甲府市錦町一一
一一、五、一六	京橋支部	相川 源八	工藤清四郎		京橋區湊町三ノ一〇
一一、八、二二	目黒支部	近藤 義晴	鈴木 與一	村上 福正	目黒區中目黒二ノ四六一
一一、二、三	横須賀支部	安藤 重起		西館 政志	横須賀市浦郷日向四、九五六
一一、一〇、四	淺草支部	馬場 精藏	根本 福藏	茅野 定雄	淺草區清川町二ノ一
一一、一〇、一三	君津支部	星野 隆輝	大泉 昇		千葉縣木更津町南町

一四、一一、三	杉並支部	森野 芳雄		齋藤千代示	小倉 基安	杉並區松ノ木一、一四八
一四、一一、三	日本橋支部	土井 健一	倉地 幸作	後藤 健一	杉本好太郎	日本橋區村松町三二
一四、一一、四	塚科支部	伊藤 勇夫	支部長代理 伊藤 勇夫		若林宗之助	長野縣埴科郡寺尾村東寺尾五二
一四、一一、一〇	東葛支部		支部長代理 横尾 豊		戸部 敏一	千葉縣東葛飾郡土村逆井
一四、一一、二二	牛込支部	來間 恭	坂倉 久治		鈴木 英一	牛込區神樂町三ノ一
一五、二、一四	千葉支部		支部長代理 吉井 孝		熊田銀次郎	千葉市本町三ノ七六
一五、四、一〇	東山梨支部	熊谷利三郎	野尻 靜馬		八崎 昇	山梨縣東山梨郡鹽山町
一五、五、五	江戸川支部	山田 茂				江戸川區東小松川同潤會住宅 三〇八
一五、六、二	蒲田支部	眞部 友一	船越 正巳			蒲田區仲蒲田一ノ一三ノ一 佐藤 万
一五、六、二三	市川支部	宗 謙一郎	加來 順一	松澤新兵衛		市川市鬼越一〇三
一五、七、六	高崎支部	佐藤 賢	田村 武二	眞木孝次郎	野中 圭二	高崎市宮元町四
一五、七、二〇	諏訪支部	伊藤 重雄	吉川富士秋		濱 史郎	長野縣諏訪郡玉川村穴山
一五、七、二二	松本支部	青木 秀吉				松本市地蔵清水
一五、七、二二	神田支部	高井 良一	島田爲次郎			神田區神保町一ノ三二一
一五、八、四	横濱中支部	白川 錫務	別役 茂		福島千代吉	横濱市中區石川町一ノ三九
一五、八、一一	安房支部		支部長代理 前田 茂助			千葉縣安房郡天津町濱萩

一五、八、一八	品川支部	下川 雅司	松田 正雄	天田 秋司	品川區大井橫現町三、七二〇
一五、九、一	本所支部	加藤 良助	渡部 祐吉	森戸 茂	本所區橫川橋四ノ六
一五、九、一五	麻布支部	伊藤 卯作	岩崎 貫一	北見 鐵枝	麻布區材木町四七
一五、九、一五	向島支部	佐藤 禎五	佐川 嘉吉	石井 謙誠	向島區吾嬭町西九ノ七七
一五、九、一五	眞壁支部		杉山 剛	田宮 邦明	茨城縣眞壁郡下館町田町
一五、九、二二	深川支部		渡邊 金藏	田宮 邦明	深川區扇橋三ノ一三ノ四
一五、九、二五	豐島支部	玉置 均一		秋山 一義	豐島區巢鴨四ノ一
一五、一〇、六	鶴見支部	齋藤 喜藏	山本 源市		橫濱市鶴見區鶴見仲町一、二二三
一五、一〇、六	東八代支部	田村 弘忠			山梨縣東八代郡一宮村
一五、一〇、六	北巨摩支部	千野伊代治			山梨縣北巨摩郡龍岡村下條南割
一五、一〇、一〇	更級支部	小宮山光雄	竹内 保太	小平 忠三	長野縣更級郡中津村大字原二九三
一五、一〇、一一	上水内支部	岡村半一郎			長野市諏訪町、松本方
一五、一〇、一三	小石川支部	平山 保		宮崎 武夫	小石川區西原町一ノ一平山方
一五、一〇、一三	小縣支部	阿形 輝司	竹内 一郎		長野縣小縣郡和村
一五、一〇、一五	勢多支部	馬場 裕二	田代 倉吉	石井喜久衛	群馬縣勢多郡木瀬村駒形新田
一五、一〇、一五	邑樂支部			梅澤 義衛	群馬縣邑樂郡永樂村字舞木

一五、一〇、一五	多野支部	五位野仁一郎	竹内 一郎	村川 一雄	群馬縣多野郡藤岡町
一五、一〇、一七	愛甲支部		小島 盛次	小倉 恒治	神奈川縣愛甲郡愛川町半原
一五、一〇、一七	荒川支部	小松田良平	諏訪安太郎	橫尾 嘉平	荒川區南千住六ノ六一、諏訪方
一五、一〇、一八	神奈川支部	新藤仙太郎			橫濱市神奈川區高島通一ノ一三
一五、一〇、一八	銚子支部	千年豊太郎			銚子市三軒町日本糧食株式會社 內 大草隆方
一五、一〇、一八	世田谷支部	宇都宮良久	杉崎慎一郎	岡 忠夫	世田谷區烏山八四四
一五、一〇、一八	足立支部	齊藤 豊吉	館野 徹二	菅谷 要三	足立區梅田町一四六二、館野方

(第二黨區)

一三、九、一三	南津輕支部	菊地 精治	佐々木喜誠	増田 義一	青森縣南津輕郡大鰐町
一四、二、一九	新潟支部	高田 莠	齋藤 忠吉		新潟市寄居町、河野方
一五、八、五	若松支部		飯盛 正康	佐藤 駒喜	會津若松市六日町一四七
一五、八、六	膽澤支部	郷右近東三	千葉 齊助		岩手縣水澤町大町
一五、八、六	盛岡支部	鈴木 信	工藤 三郎	長野 節郎	盛岡市菜園一ノ八四
一五、八、八	釜石支部	小林 格三	岩間 福藏	上田 十郎	釜石市只越町

一五、九、一〇	北秋田支部	佐賀 貞吉	庄司 博	松井與八郎	秋田縣北秋田郡鷹ノ巣町 佐賀方
一五、九、一一	弘前支部	日村 又藏	大塚 貞夫	葛西 六郎	弘前市品川町四
一五、九、一五	中浦原支部	支部長代理 大關 清一		大關 清一	新潟縣中浦原郡白根町

(第三黨區)

一三、七、一四	富士支部	渡邊 定信	本多 英三	小澤 鼎	渡邊 定男	靜岡縣富士郡大宮町本町三ノ五
一三、三、六	伊豆支部	遠藤莊次郎	鈴木 與作	石垣英太郎	森野 範司	靜岡縣田方郡北狩村柏久保五 四四
一三、三、二一	岐阜支部	三浦 正夫				岐阜市二番町
一三、九、一七	七尾支部		杉森 視朗			七尾市檜物町三五
一四、六、三	清水支部	伊豆川常造	曾根 織造		渡邊 勝雄	清水市江尻本郷一八
一四、九、一〇	中新川支部	林 喜一			篠田 博司	富山縣中新川郡西水橋町
一四、一〇、一四	大垣支部				代理 増田 源治	大垣市岐阜町一、〇〇九
一四、一、六	富山支部	廣野 久直				富山市辰巳町二三、影現寺内
一五、四、二	土岐支部	支部長代理 各務 銳一			各務 銳一	岐阜縣土岐郡土岐津町
一五、四、二四	羽島支部	後藤 節三			葛谷 義秋	岐阜縣羽島郡笠松町新町

一五、五、三	濱名支部	町田 重郎	古木五郎三郎		今泉喜兵次	靜岡縣濱名郡笠井町四六五
一五、五、一九	中支部	伊藤 勝秀	伴野日吉丸		久高 唯	名古屋市中區南鍛冶屋町四ノ七
一五、五、一九	南支部	岡田 友七	鬼頭 正雄		川添 義美	名古屋市熱田區舟方交番橋入ル
一五、八、二二	江沼支部	西出作太郎			山口 國造	石川縣大聖寺町本町
一五、八、二六	東礪波支部	奥田 安治	河合仁三郎	野村 和作	横越 與作	富山縣東礪波郡井波町井波
一五、九、一五	東支部	小栗 小一	松下廣太郎		岡部 正未	名古屋市中區宮町四ノ一六
一五、九、一五	西支部	島本 覺也	戸川 精一	田内仁三郎		名古屋市中村區中村本町三ノ五
一五、九、一五	昭和支部	中尾 勇	堀越 由行		宮澤 義丸	名古屋市中區小針町一ノ一五
一五、九、一五	東春支部	福岡 聖翁			中尾 重三	愛知縣東春日井郡品野町大字下 品野三八二ノ二
一五、九、一六	志太支部	薬科 巖	下村淺次郎	前川 孝一	寺尾 正一	靜岡縣志太郡燒津町
一五、九、一九	高山支部	上原 清二	渡邊 藤藏			高山市七日町、高原廣吉方
一五、九、二〇	武儀支部		菅原 信雄			岐阜縣武儀郡美濃町殿町 木村鶴一方
一五、一〇、六	石川支部	關 友次郎	辻 繁二	根上 哲平	倉重 恒三	石川縣石川郡松住町八日市町
一五、一〇、八	鳳至支部	國永 果	泉 賢次郎			石川縣鳳至郡穴水町
一五、一〇、九	上新川支部	支部長代理 茶木與四郎			茶木與四郎	富山縣上新川郡東岩瀨町
一五、一〇、一八	加茂支部	坂本 彌三				岐阜縣加茂郡太田町

(第四黨區)

一三、二、一一	港支部	宮川 楠三	林 要	谷川 昇	大阪市港區九條通一ノ九五
一四、六、一二	林田支部	井藤五三治		近江清太郎	神戸市林田區御藏通五ノ四
一四、六、一二	武庫支部	岩崎惣次郎	鈴木莊一郎	高田 定伸	兵庫縣武庫郡瓦木村高木、高田方
一四、九、一五	泉南支部	石橋政太郎	道幸 林道	松園 善吉	大阪府泉南郡尾崎町四三九、松園方
一四、九、二四	北支部	花田不二夫	塚本 隆三		大阪市北區堂島濱通り一ノ五九
一四、九、二五	下京支部	藪内和十郎		柿本 二郎	京都市下京區東九條宇賀邊町
一四、一〇、一五	大津支部	上田 啓次	中根 康博	前田 用吉	大津市四宮町、上田方
一四、一一、一七	東山支部	中野 豊資			京都市東山區東大路五條西筋上ル三竹村町
一五、二、九	尼ヶ崎支部		大石 忠一		尼崎市北大物町三二ノ一
一五、四、一五	右京支部	支部長代理 本間 三郎		本間 三郎	京都市右京區花園寺ノ前町
一五、四、二五	上京支部	山内 暉雄		尾島保太郎	京都市上京區榎木町烏丸西入山内方
一五、四、二六	大正支部	山田 榮吉	關屋 順	石屋 初巳	大阪市大正區三軒家東二ノ一一
一五、六、一二	須磨支部	上田幸太郎	瀧田 芳	藤田 秀介	神戸市須磨區戶崎通三ノ四六、藤田方
一五、八、四	西成支部			中村兵次郎	京都府愛宕郡大原村

(第五黨區)

一五、八、四	西成支部				大阪市西成區津守町六〇九
一五、八、四	旭支部	樋口 喜徳	野村 石松	中田 龍三	大阪市旭區蒲生町四一六
一五、八、四	此花支部	中村 一郎	中屋 喜一	澤村 行房	大阪市此花區四貫島大通り二ノ一五
一五、八、五	葦合支部	吉田 條市	中濱 昇逸	廣田 利八	神戸市葦合區神若通五ノ四二二
一五、八、六	三原支部	吉田 一郎	清川 貞一	森崎 茂木	兵庫縣三原郡廣田村
一五、八、二四	滋賀支部	中邑牛尾次郎		三津川滋三	滋賀縣滋賀郡上坂本村
一五、八、二五	栗太支部	駒井 房吉		中村 頼之	滋賀縣栗太郡草津町字草津四、駒井方
一五、九、二二	神戸支部	柴田 義光	富士井太郎	佐々木菊次郎	神戸市神戸區元町三丁目
一五、九、二三	兵庫支部	花房 健	松重 勇	井上 行生	神戸市兵庫區塚本通二ノ二十一
一五、一〇、七	福井支部	支部長代理 小林 久三			福井市照手中町七四
一五、一〇、一七	湊東支部	齋藤 榮一			神戸市湊東區荒田町三ノ二〇二ノ二二
一五、一〇、一七	湊支部	加藤 久勝			神戸市湊區湊川町三ノ一一、小林方
一五、一〇、一七	灘支部	支部長代理 丸山 宗一			神戸市灘區記田町四ノ一七、中西方

一四、二、三	岡山支部	牧野 融	沼本 清	前田 克巳	岡山市天瀬南町五三
二五、二、一七	津山支部	後藤 譽司男			津山市戸川町四〇
一五、五、九	徳島支部		松島 源七		徳島市前川町字前川一九〇ノ二
一五、六、一九	英田支部	眞野 勤一	石黒 治	中山 榮一	岡山縣英田郡江見町
一五、九、二五	久米支部	谷村 柳一	實成壽美男		岡山久米郡加美村龜甲 谷村柳一方
一五、九、二六	苦田支部	福田 一作	井上 操	山本 清市	岡山縣苦田郡芳野村古川
一五、一〇、六	高松支部	鈴木 義伸	河合 將興		高松市古馬場

(第六黨區)

二二、七、一九	小倉支部	川崎 博嗣	沖 榮次郎		小倉市船頭町常盤座
一一、七、二〇	福岡支部	支部長代理 太田嘉兵衛			福岡市上東町三三
一一、三、二〇	杵島支部	支部長代理 山口 勝實		山口 勝實	佐賀縣杵島郡中通村三間坂
一四、八、二七	門司支部	自念春次郎		橋本 信一	門司市日ノ出町二
一四、八、二九	田川支部	木村 順一			福岡縣田川郡添田町
一五、二、二一	若松支部	代理 松本 唯助			若松市藤本町一

一五、九、二二	戸畑支部	樋口 又郎	宮藤芳太郎		戸畑市高見町
一五、九、二三	玉名支部	野上 和		山下 新吾	熊本縣玉名郡荒尾町大正區
一五、九、二三	下關支部	藤田永之進	今村 勝	金子 正規	下關市竹崎町一八〇

(第九黨區)

一五、五、一二	海洋神戸支部	代理 濱 勇治	岡田 文男	松井 亮一	山田 金治	神戸市神戸區下山手通花隈三一 七
---------	--------	------------	-------	-------	-------	---------------------

支部準備會名簿

支準名	府縣名	支準長氏名	住	所
第一黨區	東京	小林貞治	澁谷區下通三ノ一〇	
下谷	東京	駒田正義	下谷區仲御徒町一ノ三三	
東京府島嶼	東京	藤田保治	府下大島元村	
王子	東京	石川喜一郎	王子區稻村町三ノ二七	
瀧野川	東京	小川小平	瀧野川區瀧野川町一、八六一	
城東	東京	高畑武男	城東區龜戸町六ノ一九	
八王子	東京	神谷卓	八王子市八日町	
水戸	茨城	福田耕二郎	水戸市裡南町三 床井方 興亞塾	
南埼玉	埼玉	朝倉長喜	埼玉縣越ヶ谷町	
夷隅	千葉	小林大耕	千葉縣夷隅縣上野村中里區	
磯子	神奈川	佐々木政二	橫濱市磯子區森町八六二	
川崎	神奈川	陶山篤太郎	川崎市榎町六	
第二黨區				

支準名	府縣名	支準長氏名	住	所
第三黨區	靜岡	清光雄	庵原郡蒲原町中三三一	
庵原	靜岡	辻村幸一	田方郡三島町市ヶ原	
熱海	靜岡	片岡眞吾	熱海市伊豆山	
駿東	靜岡	山本武一郎	駿東郡浮島村西舟津	
濱松	愛知	芝田鐵之助	濱松市田町二六八、門井方	
幡豆	愛知	山崎勝人	幡豆郡西尾町須田	
豐橋	同	天野啓太郎	豐橋市小池町原下五八	
岡崎	同	杉森視朗	岡崎市明大寺町耳取四ノ一三	
鹿島	同	鈴木繁	七尾市檜物町三五	
金澤	同		金澤市東馬場町一五	
柴田	宮城	駒板次郎	柴田郡槻木町成田六	
山形	同	今野重四郎	飽海郡本楯村	
岩手	同	金崎元次郎	上閉伊郡大槌村	
新潟	同	高橋綱二	三條市八幡前通	
西蒲原	同	谷橋	西蒲原郡燕町	
北見	同	小林長二郎	紋別郡上生田原村、横山次平方	
釧路	同	栗山榮吉	釧路市入舟町六ノ一二	

北	宇	賀	倉	第五黨區	和	中	伏	川	垂	明	津	西	野	彦	蒲	生	北
宇	部	茂	敷		歌	京	見	邊	水	石	名	宮	洲	根	生	駒	葛
和	部	茂	敷		山	京	見	邊	水	石	名	宮	洲	根	生	駒	葛
愛	山	廣	岡		和	同	京	同	同	同	同	兵	同	同	滋	同	同
媛	口	島	山		歌	都						庫			賀		
谷	岡	栗	石		猪	伊	小	岸	河	豊	吉				濱		
本	谷	栖	合		木	藤	川	本	合	田	岡				崎		
久	泰	景	幸		勇	辰	寅	圭	了	昌	利				吉		
雄	介	月	助		一	治	之	藏	太	造	康				兵		
					郎	郎	助	藏	太	造	康				衛		

滋賀縣八幡町新町四丁目 村田吉松方

西宮市津門稻前町二七

津名郡洲本町四四七

明石市中町三八

明石郡西垂水神田町康賣市場

川邊郡稻野村西野

伏見區三木西二丁目

和歌山市十二番町五

倉敷市榮町六〇〇

賀茂郡西條町

宇部市宇部新川驛前、宇部運橋内

北宇和郡吉田町

南	住	豐	布	西	東	池	東	西	浪	天	第四黨區	多	三	多	郡	吉	高
葛	吉	能	施	川	川	田	成		速	寺		氣	重	見	上	田	岡
奈	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大		同	三	同	岐	福	富
良										阪		重		阜	井	山	
木		田	岩	阪	櫻	龜	伊	倉	石			岩	坂	平	井	山	井
村		中	田	東	井	本	藤	橋	川			木	倉	川	上	竹	本
京				清	岩	源	松	重	庄			清	喜	茂	俊	佐	和
太				三	次	十	太	男	五			郎	市	一	三	久	平
郎				郎	郎	郎	郎	郎	郎			弘	郎	郎	郎	馬	平

高岡市小馬出町

吉田郡森田町八重巻

那上郡八幡町橋本町商業組合内

岐阜縣多治見市

三重郡神前村會井

多氣郡佐奈村

天王寺區石ヶ辻町八〇

浪速區櫻川三丁目

西區新町通五

東成區中川町一七五

府下池田町元新町

東淀川區新高町一九八

西淀川區海老江下一ノ一八

布施市大字柏田九二

奈良縣南葛城郡大正村

第七黨區	大分	佐賀	山門	鞍手	阿蘇	球磨	天草	熊本	豊浦	第六黨區	小豆	大川	木田	香川	今治	阿波	名西
	大分	佐賀	同	同	同	同	同	熊本	山口		同	同	同	香川	香川	同	德島
	成清	外山	藤吉	藤上	禿年	菊池	田中	石坂	上西		井上	庵原	三木	德田	越智	井内	生田
	文雄	文雄	嵩	茂	光	郎	彦	一城		八郎	謙	雄	一	源	太郎	三	一

名西郡石井町
阿波郡大俣村、井内病院内
今治市昭和通二丁目
香川郡上笠居村字鬼無二六六
木田郡牟禮村
大川郡長尾町
小豆郡
豊浦郡宇賀村八、四四一ノ一
熊本市出水町國府一、七三一
天草郡本渡町、ヨシノ屋支局内
球磨郡人吉町田町
阿蘇郡小國町官原
鞍手郡木屋瀬町、笹田原口鑛業所本部内
山門郡大和村大字豊原上鹽塚三、小田實方
佐賀市大財町
大分市字白木

大連 連
第八黨區
關東州
重盛 吉直
臺北 臺灣 片山謙太郎

大連市櫻町一、二、三、五ノ一
臺北市西門町三ノ一九

分會名簿

(第一黨區)

分會名	所屬支部	分會長名	事務所所在地
芝第一分會	芝支部	中西茂八	芝區濱松町一ノ七ノ一
芝第二分會	同	廣瀬武夫	芝區四國町二ノ一九
芝第四分會	同	伊能洋一	芝區芝浦一ノ四六
荏原第一分會	荏原支部	白岩拾重	荏原區上神明町三七三
烏山分會	世田谷支部	濱野留五郎	世田谷區烏山町一〇五〇
阿佐谷分會	杉並支部	小宮正太郎	杉並區阿佐ヶ谷一ノ七六四
永福分會	同	同	杉並區永福町三九四、佐土方
大和分會	中野支部	夏目正夫	中野區萬大和町一七一

牛込 第十分会	品川 第一分会	品川 第二分会	品川 第三分会	品川 第四分会	吾嬭 分会	寺島 分会	兩國 分会	既橋 分会	太平 分会	本所機械工業分会	二葉 分会	澁谷 第一分会	蒲田 第一分会	東蒲 分会	羽田 分会	深川 第一分会	深川 第二分会
同	品川 支部	同	同	同	向島 支部	同	本所 支部	同	同	同	同	澁谷 支準	蒲田 支部	同	同	深川 支部	同
石川 忠之進	山根 逸造	中條 聰次	太刀 岡猛	荒居 清晴	佐藤 寅治	大河内 榮吉	古市 仁治	辻岡 友治	小川 正男	齋藤 靜夫	遠山 武雄	眞壁 甚三郎	坂本 米藏	西村 惠治郎	藤田 三重樹	伊藤 義司	新美 孝平

牛込區神樂町三ノ四
品川區大井鐙町三五六八
品川區上大崎二ノ五六六
品川區大井瀧王子町四四八六
品川區南品川五ノ一六九
向島區吾嬭町西一ノ一七
向島區寺島町七ノ七三
本所區堅川町一ノ二二、野中方
本所區既橋四ノ一七
本所區江東橋二ノ一
本所區石原町一ノ一、石川洋紙店內
澁谷區下通三ノ一〇、小林貞治方
蒲田區矢口町四六一、新興莊內
蒲田區東蒲田二ノ四
深川區常盤町二丁目七
深川區富岡町二丁目三ノ二

深川 第三分会	荒川 第一分会	荒川 第二分会	京橋 第一分会	京橋 第二分会	京橋 第三分会	大島 元村分会	八王子 第一分会	立川飛行機分会	本郷電車分会	荒川電車分会	本所電車分会	芝電車分会	豊島電車分会	牛込電車分会	瀧野川電車分会	中野自動車分会	澁谷自動車分会
同	荒川 支部	同	京橋 支部	同	同	東京府 島嶼支準	八王子 支準	同	東京市電	同	同	同	同	同	同	同	同
小林 孝義	村山 武夫	加藤 健逸	田野口 久雄	豊島 茂一	間島 確司	阿部 陸夫	土澤 敏雄	今資 次郎	五十嵐子女次郎	深井 正雄	森田 福三郎	富田 元市	長井 恭三郎	山下 卯三郎	瀧川 高吉	篠田 八十八	大金 清

京橋區小田原町一ノ七
京橋區築地二ノ一三
府下大島元村
北多摩郡立川町三一九九

小石川自動車分會
 淀橋自動車分會
 足立自動車分會
 目黒自動車分會

同
同
同
同

新沼藤太郎
 高橋鐵彌
 菅谷要三
 磯貝仁助

千葉縣

木更津第一分會
 波岡分會
 木更津第二分會
 青堀分會
 巖根分會
 木更津第四分會
 清川分會
 中川分會
 秋元分會
 八幡分會
 中山分會
 千葉第一分會
 波田沼分會

君津支部
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

渡邊俊
 伊藤優
 星野隆輝
 濱名儀三郎
 鈴木金治
 葛田誠二
 浦邊彌助
 宗政保
 金見善次郎
 稻葉實
 松澤新兵衛
 鈴木龜太郎
 岩佐喜一郎

君津郡木更津町木更津九三一
 君津郡波岡村字畑澤
 君津郡青堀町大堀、竹中方
 君津郡巖根村久津間
 木更津町木更津一五八〇、渡邊方
 君津郡清川村長須賀
 君津郡中川村
 君津郡秋元村
 市川市八幡一〇〇
 市川市鬼越一〇三
 千葉市本町一ノ一二一
 千葉郡二宮町前原

千葉第二分會
 上野分會
 松戸分會
 土分會
 風早分會
 流山分會
 柏分會
 馬橋分會
 勝山分會
 天津分會

同
夷隅支準
東葛支部
同
同
同
同
同
同
同
安房支部
同

小原政吉
 小林大耕
 松丸義男
 横尾豐
 成川四郎
 大塚光盛
 森九左衛門
 八木金治郎
 鈴木福藏
 分會長代理
 前田茂助

千葉市要町一三三
 夷隅郡上野村中里
 東葛郡松戸町松戸一二八二
 東葛郡土村
 東葛郡風早村塚崎八五三
 東葛郡流山町
 東葛郡柏町豐四季
 東葛郡馬橋村馬橋
 安房郡勝山町下久間一、三二三
 安房郡天津町濱萩

神奈川縣
 鶴見第一分會
 鶴見第二分會
 鶴見第三分會
 鶴見第四分會
 屏風ヶ浦分會
 金澤分會
 愛川分會

鶴見支部
同
同
同
同
磯子支部
同
愛甲支部

高橋卯
 大谷辨一郎
 藤田武興
 小松原利一
 佐々木政二
 堀越正作
 小島盛次

横濱市鶴見區鶴見町一、一七七
 横濱市鶴見區上町一五六〇、橋本方
 横濱市鶴見區生麥町三五八
 横濱市鶴見區上末吉六八
 横濱市磯子區森町八六二
 横濱市磯子區杉田町九四
 神奈川縣愛甲郡愛川町半原

(横濱航空特種株式會社內)

長野縣	鹽尻分會	小縣支部	瀨澤平	長野縣小縣郡鹽尻村秋和七八七
	寺尾分會	埴科支部	中澤司	長野縣埴科郡寺尾村大室
	松代分會	同	小林勤	長野縣埴科郡松代町六八
	西條分會	同	河崎尹晴	長野縣埴科郡西條町三九三
	諏訪第一分會	諏訪支部	宮本繁志	長野縣諏訪郡上諏訪町二九四一
	諏訪第二分會	同	清茂	甲府市深町二一六
	諏訪第三分會	同	五味寬光	甲府市工町八三
山梨縣	寒天業分會	同	古屋照藏	山梨縣東山梨郡鹽山町下於會九三一
	東部分會	甲府支部	石野捷市	山梨縣東山梨郡鹽山町上於會
	琢美分會	同	岡森男	山梨縣東山梨郡勝沼町三〇一〇
	鹽山分會	東山梨支部	宮下一郎	山梨縣東山梨郡中牧村
	鹽山工場分會	同	高崎支部	高崎市鞆町二〇
	勝沼分會	同	宮下一郎	
	中牧分會	同		
群馬縣	中央分會	高崎支部		

東分會	同	小林昇五郎	高崎市九藏町三八
南分會	同	中澤贊	高崎市八島町一四
北分會	同	大山正	高崎市相生町四四
埼玉縣	南埼玉準	鈴木幸太郎	埼玉縣越ヶ谷町
越ヶ谷分會	同	菅沼忠雄	猿島郡岩井町
茨城縣	猿島支部	內田德	猿島郡新郷村大字坂間五八
岩井分會	同		
新郷分會	同		

(第二黨區)

福島縣	若松分會	若松支部	飯盛正康	會津若松市中六日町一四七
	新潟縣	新潟支部	木村良平	新潟市上大川前通十番町
	中央分會	同	片桐謙郎	北秋田郡落合村
	秋田縣	北秋田支部		
	北秋田第一分會	同		

北秋田第二分會	同	細田與治郎	鷹ノ巣町
北秋田第三分會	同	田中元康	
北秋田第四分會	同	石川信吉	大館町
北秋田第五分會	同	佐々木信太郎	花輪町
青森縣			
藏館分會	南津輕支部	菊地精治	南津輕郡藏館村
常盤分會	同	館山末吉	南津輕郡常盤村
大鰐分會	同	上田陽一	南津輕郡大鰐町
富木館分會	同		
北海道			
生田原分會	北見支準	横山次平	北見國紋別郡生田原村

(第三黨區)

愛知縣			
高藏分會	南支部	松村文雄	名古屋市熱田區新尾頭町一五四
呼續分會	同	三上長藏	名古屋市南區呼續町山崎二一
船方第一分會	同	加藤式三郎	名古屋市熱田區船方交番横入ル 岡田方

船方第二分會	同	後藤貞助	名古屋市熱田區船方交番横入ル 岡田方
船方第三分會	同	菊田清太郎	名古屋市熱田區船方交番横入ル 岡田方
港分會	同	清水熱	
城西分會	西支部	土田富士夫	名古屋市西區御幸本町七ノ一 牧野方
本町分會	同	岡部正末	
五月分會	同	前野由一	
八熊分會	同	清水武夫	
露橋分會	同	加藤大之輔	
千種分會	東支部	山代屋一夫	名古屋市千種區神田町二ノ三六 伊藤方
八重分會	同	橋本吉治	名古屋市中區川端町三ノ一五
若宮分會	中支部	山本海藏	名古屋市中區東古渡町三ノ二六
愛知分會	同	廣瀬義雄	名古屋市中區東古渡町三ノ二六
南久屋分會	同	長澤芳雄	中區矢場町二ノ四二
瑞穂分會	同	中尾勇	
日置分會	同	村田大藏	名古屋市中區宮前町一ノ三三
千早分會	同	龜井道雄	昭和區御器所町門屋敷四〇
御器所分會	同	長坂武一	

幸菱分會	吹上分會	堀田分會	品野第一分會	品野第二分會	品野第三分會	寺津分會	南分會	西分會	北分會	東分會	水野第一分會	靜岡縣	修善寺分會	田中分會	北狩野分會	伊東分會	笠井分會
昭和支部	同	同	東春支部	同	同	幡豆支部	同	同	同	同	東春支部	伊豆支部	同	同	同	同	濱名支部
尾池義三	大岩運次	佐藤宇市	長谷川人雄	加藤忠雄	岩松兼彦	高須一郎	間瀬幸作	杉浦儀三郎	鈴木五市	加藤清一	山中文作	石井金吾	增島康次	小山喜作	古木五郎三郎		
			東春日井郡品野町大字品野三八二ノ二		幡豆郡寺津町大字寺津九一	西尾町永概	愛知縣西尾町葵六六	西尾町新屋敷			伊豆修善寺町熊坂七一	田方郡田中村大仁	田方郡北狩野村柏久保六二八〇	田方郡伊東町松原	濱名郡笠井町笠井、渡邊方		

北濱分會	龍池分會	袖師分會	南分會	東分會	原田分會	岐阜縣	美濃分會	梅林分會	那加分會	本郷分會	金華分會	鏡島分會	華陽分會	徹明分會	明德分會	京町分會	木ノ本分會
同	同	清水支部	濱松支部	同	富士支部	岐阜支部	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
金原正平	松島七郎平	澤野福太郎	白井鐵次	原秀光	望月助一	木村鶴一	石田勝晃	安藤逸三	高田米吉	河合貞一	天井龍司	鬼頭爲右衛門	荻頭雪雄	石神安雄	木村茂	蒲生壽太	
濱名郡北濱村	濱名郡瀨池村字善池	濱松市海老塚町二六三	濱松市野口町三協機械製作所	靜岡縣富士郡原田村		岐阜市三番町一	稻葉郡那珂町元町	岐阜市本郷町一ノ四	岐阜市白木町	岐阜市安良田町五丁目	岐阜市東住田町二八九三ノ一	岐阜市神田町三	岐阜市下竹町				

長森北部分會	同	佐野政一	羽島郡正木村須賀
正木分會	羽島支部	北川敏久	羽島郡八劍村下印食
八劍分會	同	大竹康公	柳島郡柳津村
柳津分會	同	奧村順一	羽島郡松ヶ枝村 野村定雄方
松枝分會	同	道家謙司	羽島郡笠松町
笠松分會	同	箕浦大吾	土岐郡土岐津町
土岐津分會	土岐支部	各部銳一	武儀郡關町千年町 金森方
關分會	武儀支部	後藤慎一	安八郡洲本村 川口昆一雄方
洲本分會	大垣支部	林仁七	郡上郡八幡町大字鍛冶屋町七七五
八幡分會	郡上支部	井上俊三	岐阜縣加茂郡太田町
太田分會	加茂支準	後藤錠一	

富山縣

建築分會	富山支部	山崎幸次郎	富山市辰巳町
北部分會	同	谷地元榮作	富山市奥田歌塚町二
研友分會	同	桃井正義	富山市辰巳町一〇三
中新川第一分會	中新川支部	中田半次郎	中新川郡東水橋町東濱
中新川第二分會	同	叶井豐次郎	中新川郡東水橋町稻荷町
中新川第三分會	同	篠田博司	中新川郡西水橋町

井波分會	東礪波支部	藤井孝次郎	東礪波郡出町太郎丸二八六四
福野分會	同	中成孝	石川縣鹿島郡鳥屋村
城端分會	同	大西弘映	石川縣鹿島郡御祖村
出町分會	同	井家孝藏	江沼郡矢田野村字矢田野
石川縣	江沼支部	大杉喜一郎	江沼郡南郷村字下川崎
鳥屋分會	同	中會根要一	江沼郡山中町
御祖分會	同	田邊與三吉	江沼郡勳橋村
矢田野分會	同	木村駒吉	江沼郡山代町宇山城
南郷分會	同	畦地與三郎	江沼郡西谷村字柏野
山中分會	同	羽根田與之吉	江沼郡大聖寺町字松ヶ根町一
勳橋分會	同	大筆保	鹿島郡高階村字町屋
山代分會	同	錦政吉	三重縣多氣郡佐奈村
西谷分會	同		
大聖寺分會	同		
高階分會	鹿島支準		
三重縣	多氣支準		
佐奈分會			

長森北部分會	同	佐野政一	羽島郡正木村須賀
正木分會	羽島支部	北川敏久	羽島郡八劍村下印食
八劍分會	同	大竹康公	柳島郡柳津村
柳津分會	同	奧村順一	羽島郡松ヶ枝村 野村定雄方
松枝分會	同	道家謙司	羽島郡笠松町
笠松分會	同	箕浦大吾	土岐郡土岐津町
土岐津分會	土岐支部	各部銳一	武儀郡關町千年町 金森方
關分會	武儀支部	後藤慎一	安八郡洲本村 川口昆一雄方
洲本分會	大垣支部	林仁七	郡上郡八幡町大字鍛冶屋町七七五
八幡分會	郡上支部	井上俊三	岐阜縣加茂郡太田町
太田分會	加茂支部	後藤錠一	

富山縣

富山支部	山崎幸次郎	富山市辰巳町
同	谷地元榮作	富山市奥田歌塚町二
同	桃井正義	富山市辰巳町一〇三
同	中田半次郎	中新川郡東水橋町東濱
同	叶井豐次郎	中新川郡東水橋町稻荷町
同	篠田博司	中新川郡西水橋町

東礪波支部	藤井孝次郎	東礪波郡出町太郎丸二八六四
同	中成孝	石川縣鹿島郡鳥屋村
同	大西弘映	石川縣鹿島郡御祖村
同	井家孝藏	江沼郡矢田野村字矢田野
同	大杉喜一郎	江沼郡南郷村字下川崎
同	中會根要一	江沼郡山中町
同	田邊與三吉	江沼郡勳橋村
同	木村駒吉	江沼郡山代町字山城
同	畦地與三郎	江沼郡西谷村字柏野
同	羽根田與之吉	江沼郡大聖寺町字松ヶ根町一
同	大筆保	鹿島郡高階村字町屋

石川縣

井波分會	東礪波支部	藤井孝次郎
福野分會	同	中成孝
城端分會	同	大西弘映
出町分會	同	井家孝藏
鳥屋分會	七尾支部	大杉喜一郎
御祖分會	同	中會根要一
矢田野分會	江沼支部	田邊與三吉
南郷分會	同	木村駒吉
山中分會	同	畦地與三郎
勳橋分會	同	羽根田與之吉
山代分會	同	大筆保
西谷分會	同	
大聖寺分會	同	
高階分會	鹿島支部	

三重縣

佐奈分會	多氣支部	錦政吉
		三重縣多氣郡佐奈村

(第四黨區)

京都府

京都府	東山支部	樋口喜一郎	東山區本町七丁目
貞教分會	尾林友四郎	東山區正面通本町東入茶屋町五一八	
六原分會	木下武男	東山區大黒町松原下ル北御門町二五四	
一橋分會	西垣彌三之助	東山區大和大路七條下ル二辰上町五七八	
山科分會	杉山又一郎	東山區山科御陵原西町五九	
一橋第三分會	辻松之助		
日本輕合金分會	吉田文治	右京區御室芝橋町三	
花園分會	西田嘉四郎	右京區鳴瀨蓮華寺町一六	
洛西映畫人分會	上田吉二郎	上京區衣笠南道町	
衣笠分會	若狹滿壽	上京區大宮通寺ノ内上四丁目	
成逸分會	加納喬彦	愛宕郡大原村大原小字草生	
大原分會	茶谷彌七	愛宕郡入瀬村	
八幡分會	久保政次郎	愛宕郡岩倉村	
岩倉分會	西川新藏	下京區東七條御之町七六 小中茂一郎方	
崇仁分會	分會長代理 和十郎		

菊濱分會	同	辻井惣七郎	下京區東高瀬五條下ル都市町一五五 辻井惣七郎方
中央市場分會	同	松井重吉	下京區西七條石ヶ坪町二二 松井重吉方
下京第一分會	同	北川喜代一	下京區東九條上殿田町七四
陶化分會	同	松井二三郎	下京區東九條烏丸町八六
下京第二分會	同	長瀬三郎	下京區東九條下札ノ辻西入北河邊町三九
伏見第一分會	伏見支準	伊藤辰治郎	伏見區三木西二丁目

夕風分會	港支部	井上豊次郎	大阪市港區夕風町二ノ一〇
波除分會	同	高橋徳太郎	港區辨天町四ノ七
磯路分會	同	白石文造	港區市場通一ノ七
音羽分會	同	平野直介	港區音羽町一ノ六
魁分會	同	中山善太郎	港區魁町二ノ四
石田分會	同	久戸瀬節夫	港區石田町三ノ二九
壽分會	同	近藤四郎	港區市場通一ノ三
辰巳分會	同	林信太郎	港町八雲町四ノ二八
八幡屋分會	同	長野吉之助	港區田中元町五ノ一〇一
大六分會	同	野口偉資	港區市場通二ノ二
朝潮分會	同	鈴木亮	港區八幡屋松之町二ノ二〇六

大正第一分會	北泉尾分會	三軒家分會	鶴町分會	中川分會	東成分會	船場分會	眞田山分會	京阪分會	兵庫縣			杭瀬分會	長州分會	大物分會	北部分會	西部分會	中部分會	元町分會	津明分會		
大正支部	同	同	同	東成支準	同	東支準	同	同	尼ヶ崎支部	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	西宮支準	
萩谷順一	神崎熊太郎	山田榮吉	江島茂	稻森稔	宮本純一	佐藤光一	石田金吾	柴田彌藏	佐藤賢一	濱名菊雄	安達貞穗	今中昇	鴻上杉政	坂本藤太郎	柴田義光	近藤末次郎					
大正區北泉尾一ノ一七九	大正區三軒家東二ノ一三	大正區鶴町三ノ一二七	布施市高井田東一ノ一二	東成區鶴橋北之町一八三	東區伏見町三ノ三〇仲孫組 福田方	東區木野町八	北河内郡四宮村字下馬伏	尼ヶ崎市杭瀬古樋八	尼ヶ崎市長州東畑六五	尼ヶ崎市大物町三二ノ一	尼ヶ崎市潮江四四	尼ヶ崎市難波新町三ノ二三九	尼ヶ崎市築地南濱二ノ二九	神戸區元町三丁目	西宮市津門大箇町						

灘分會	御菅分會	池田分會	尻池分會	垂水分會	由良分會	西代分會	神都自動車分會	太田分會	大我分會	御屋敷分會	戶崎分會	入江分會	東山分會	中道分會	大開分會	東部交通分會	阪急分會	
灘支部	林田支部	同	同	垂水支準	津名支準	須磨支部	同	同	同	同	同	兵庫支部	同	同	同	武庫支部	同	
若林明	六室信造	伊藤榮	那須順一郎	人見繁	吉田茂	内田孫藏	中塚篤	中尾萬太郎	山下貞治	速水重正	山浦龜市	井上彌三郎	松重男	紀井貞義	本多正登	篠原壽		
灘區記田町四ノ一七 中西方	林田區御藏通七ノ三六	神戸市林田區川西通三ノ三五	林田區長樂町四ノ八三	明石郡西垂水町 岸本方	津名郡由良町四丁目	須磨區西通町三ノ二〇	須磨區太田町四ノ一三九	須磨區太田町一ノ一二五	須磨區我町一丁目	須磨區御屋敷通五ノ二一		兵庫縣南逆瀬川町一ノ五七ノ一五						

津門分會	丸木分會	八庄分會	八東分會	楠東分會	菊水分會	湊川分會	平野分會	滋賀縣	膳所分會	西分會	石山分會	滋賀分會	物部分會	下阪本分會
同	同	同	同	湊東支部	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
山中源次郎	戶井富雄	牛田源次郎	金森光朝	金西美津久	小林立隆一	谷口浩司	中村清二	中村清二	中村清二	中村清二	中村清二	中村清二	中村清二	中村清二

武庫郡瓦木村高木東大飼
武庫郡大庄村西字東ノ口

神戸市湊東區荒田町三ノ二〇二ノ一〇〇
神戸市湊區湊川町三ノ一一一

大津市膳所本町上濱田町
大津市尾花川町二九
大津市石山島居川町三二
大津市綿織町六八六ノ一
栗太郡物部村字勝部 上藪方
滋賀郡下阪本村字下阪本一六五三

(第五黨區)

岡山縣	內山下第一分會	弘西第一分會	深抵第一分會	清輝第一分會	鹿田第一分會	南方第一分會	三動第一分會	御野第一分會	英田分會	德島縣	富田分會	新町分會	東佐分會	出來島分會	謂東第一分會	謂北分會	八木分會
岡山支部	同	同	同	同	同	同	同	同	英田支部	德島支部	同	同	同	同	同	同	同
三宅辰三郎	花房實硬	川西實	山崎二郎	則武頼雄	前田克巳	銅前富次郎	平井稔	眞野勤一	眞野勤一	庄野猪太郎	中村守一	原田範市	濱尾清七	湯村謙	藤見義夫	近藤条三	

英田郡江見町

德島市大道二ノ一三三二
德島市新かじや町
德島市佐古田浦町
德島市出來町本町
德島市住吉島馬場北七六
德島市下助任町字野神
德島市出來島本町 八木工場内

高知縣
稻生分會

長岡支準

井上富喜

高知縣長岡郡稻生村八六四

(第六黨區)

福岡縣

交通分會

若松支部

上野武雄

若松市藤ノ木藤北町

濱第一分會

同

二階堂敏雄

若松市藤ノ木唐戸町

藤ノ木分會

同

小川宗一

若松市藤ノ木町二丁目

理容分會

同

宮岡兵衛

若松市小竹一七四四

脇浦分會

同

井本磯次

若松市小竹一七四四

會根分會

小倉支部

長野幸一郎

若松市小竹一七四四

山口縣

碓波分會

下關支部

今村勝

下關市外濱町八

佐賀縣

武雄分會

杵島支部

桑原鐵雄

武雄町富岡七八四七

中通分會

同

永田茂

杵島郡中通村

熊本縣

人吉分會 一球磨支準 一泉萬次郎 一熊本縣球磨郡人吉町新町

(第七黨區)

朝鮮

洪君分會

高官榮吉

咸鏡南道端川郡水下面古城里
虛川江第二發電所 石川健藏方

(第九黨區)

海洋

瑞穂丸分會

海部洋神戶支

高木由太郎

高砂丸分會

同

佐藤春之助

連絡員名簿

第一黨區	黨區	府縣名	姓名	住所
栃木	松島	松島	章	栃木縣下都賀郡桑村喜澤

第九黨區	第八黨區	同	同	同	同	同	第七黨區	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
海外	臺灣	同	同	同	同	同	朝鮮	福岡	同	鹿兒島	大分	高知	愛媛	同	同	同	同	同	同
鹿島達人	川村恭	丸永重幸	秋山文太郎	天方憲平	久本佐太郎	平光次	松尾彌	吉田重雄	坂口實	安部新一郎	木戸小平	福原傳三郎	樋本信夫	同	同	同	同	同	同

御調郡美ノ郷村
 上浮穴郡參川村
 高知市梅ノ辻二六
 大分縣西國東郡河内村大字森一二一三
 鹿兒島市上荒田町 西鹿兒島工場技術係
 大島郡東天城村轟木
 福岡縣山門郡山川村新町
 京城府京城地方專賣局收納課
 咸鏡北道鏡城郡羅南邑初瀬町九七
 仁川府昭和町 弘中商工株式會社富平工場社宅二〇四
 慶尙北道醴泉郡豐壤面憂忌里三三四
 京城府黃金町二〇一九九 勝屋商店
 臺北市福住町三九 豐島方
 北米カルフォルニヤ・サンフランシスコ・ロンバード街1873

(新設縣聯追加)

一五、一〇、一八 神奈川縣聯合支部
 事務長 橫濱市中區本町四 若尾ビル六階新藤仙太郎方
 西館 政志

(新設分會追加)

神奈川縣	中央分會	北郷分會	滋賀縣	滋賀第十一分會	京都府	梅運分會	安寧分會	九條分會	新潟縣	白根分會	小須戸分會	新保分會
橫須賀支部	同	同	大津支部	同	下京支部	同	同	同	中蒲原支部	同	同	同
大島萬吉	齋藤巖	分會長代理 中根康博	柿本三郎	竹元春市	高橋正男	渡邊萬一郎	松村信三郎	丸山兵一	中蒲原郡白根町	中蒲原郡小須戸町三四三九	中蒲原郡小須戸町新保	
橫須賀市深田町一五〇	橫須賀市追濱町二五五		下京區坊城八條下ル東寺町	下京區油小路三哲下ル西入	下京區西九條開ケ町一六							

支部結成に關する注意

黨の組織及活動の單位は支部であるから之が結成については萬全の注意を必要とす。

- 一、支部結成には正黨員百名以上を得ることを必要とする。
 - 二、支部は大都市にあつては區、其他は市郡を單位とするから例へ百名以上の黨員が出来てもそれが一ヶ町村、或は一町内等におもひ偏つて居ることなく出来るだけ全區又は數ヶ町村に普く黨員が出来てから結成するを可とする。
 - 三、支部長は、將來の發展を豫想し信望識見ある人物を推すこと。適當の人物なければ代理を設け將來適任者あるまで支部長の職務を代行する。
 - 四、支部結成に當つての儀式は、特に御祭神が 皇室御關係の方である神社に於て舉行すること。
 - 五、支部結成の際は、支部長、副支部長或は支部長代理たるべき氏名を、結成式十日前までに本部に具申すべし。
- 本部は審議の上任命する。事務長以下は支部長の任命とする。

- 六、支部に黨員名簿を常置し、生年月日、學歷、職能等を記載すること。
- 七、支部結成式は左の式次に準據して行ふこと。

支部結成式式次

(第一式)

整列

- 一、修
 - 二、奉
 - 三、神
 - 四、支部結成奉告祝詞奏上(神職をして行はしむ)
 - 五、玉 申 奉 奠(同)
 - 六、支部長並副支部長任命(統領之を任命す)
 - 七、支 部 旗 授 與(統領より支部長に授く)
 - 八、支 部 役 員 任 命(支部長之を任命す)
 - 九、支 部 結 成 宣 誓(支部長統領に宣誓す)
 - 十、神 拜(號令者の號令による)
 - 十一、撤
- 被(神職をして行はしむ)
撰(神職をして行はしむ)
拜(號令者の號令による)
撰(神職をして行はしむ)
撰(但省略する事あり)

(第二式)

第一式神拜終了後、拜殿階段下に演壇を設け引つゞき第二式にうつる。

- 一、皇 居 遙 拜
- 二、國 歌 奉 唱
- 三、統 領 訓 示
- 四、支 部 長 挨拶(支部黨員に對し挨拶す)
- 五、來 賓 祝 辭
- 六、祝 電 披 露
- 七、黨 歌 合 唱
- 八、聖 壽 萬 歳(統領發聲)
- 九、大日本青年黨萬歳(支部長發聲)
- 十、大日本青年黨××支部萬歳(來賓代表發聲)

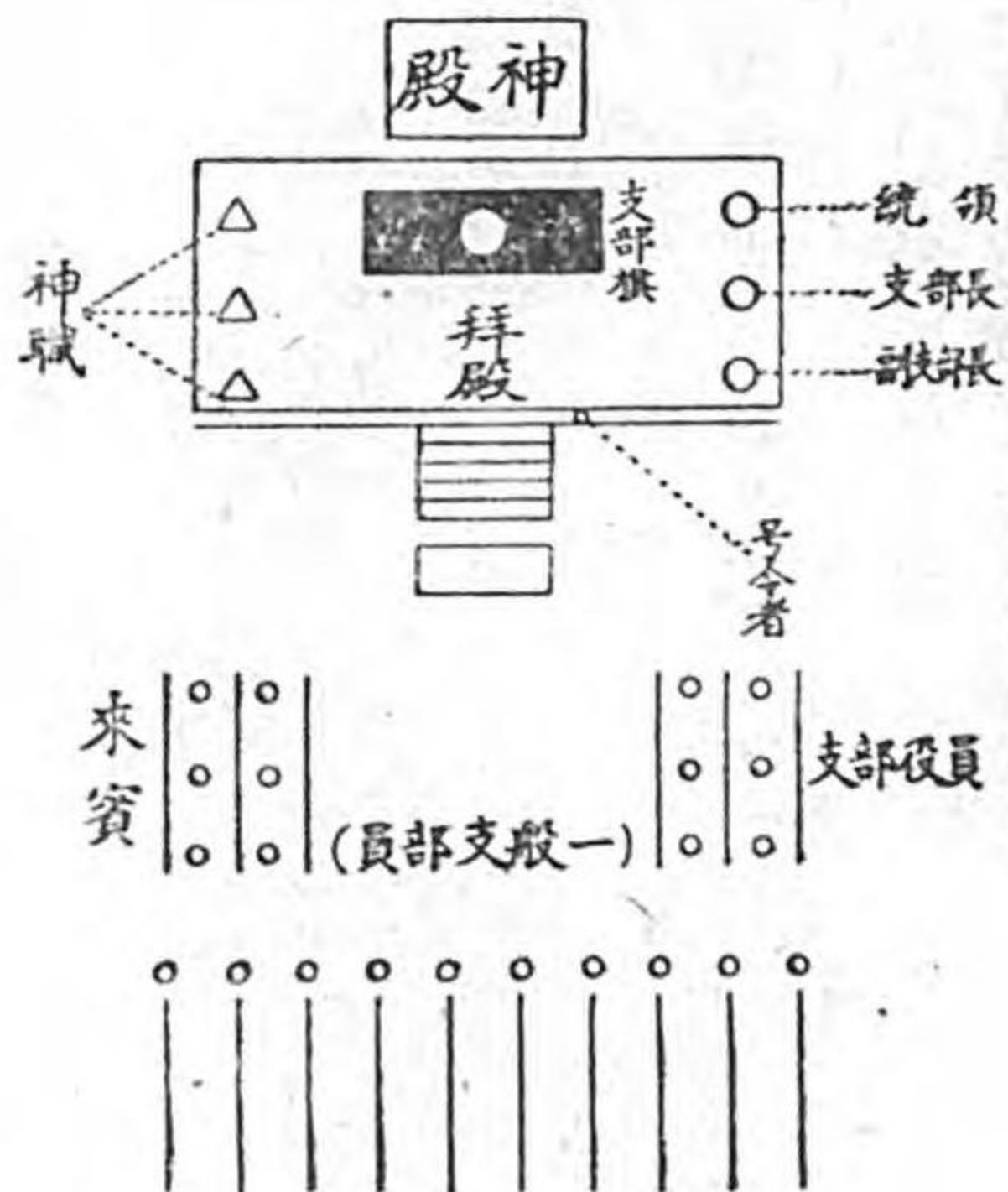
[注 意]

神拜——一拵 二拜二拍手 一拜 一拵——
神前不動の姿勢を正し先づ一拵(上體を約三十度前方に屈し軽く禮をし)續いて二拜(最敬禮を二回連続してなす)
次に二拍手「イチ」と手を合はせ「ニー」で手の右方を少しく手前に引き「サン」「シー」と二拍手し「ゴオ」と双手を正しく合せ「ローク」と手を下す(集團神拜はこの

呼吸の調子を合せること)
二拍手の後一拜即ち最敬禮を一回し、最後に一拵して退下するのである。

以上

神前整列圖解



昭和十五年十月十七日 印刷納本
昭和十五年十月二十日 發行

編輯印刷
兼發行人

橋本音之

發行所

大日本青年黨本部

東京市澁谷區櫻田一ノ二二五

奥付

印刷所

兼平印刷所

東京市麹町區飯田町一ノ二二

大日本青年黨々歌

北原白秋作詞
注 順治作曲

- 一 黎明來れり、第二の開闢
仰げよ、まさしく歴史は移れり。
世界は悔めり、この秋、この空、
太陽、我等が光りは騰れり。
日本、日本、輝け我が明日、
舉つて起つべし 青年我が黨。
- 二 皇道魏々たり 天地の大法、
奉ぜよ正しく、中なる莊嚴、
聖明もとより神にし坐せば
八紘一字の國是は儼たり。
日本、日本、輝け我が明日、
舉つて起つべし 青年我が黨。
- 三 惟ふに純正、是あり明朝、
神威は際なし、仁なり、武備なり、
宜なり祭政、一如の物心。
- 四 人類至高の使命は俟つあり、
日本、日本、輝け我が明日、
舉つて起つべし 青年我が黨。
更新念あり、國家の體制、
徹せよ民族、四海を照らすに
天業我あり 日本精神、
顯現いよ々々 飛躍しつゞけむ。
日本、日本、輝け我が明日、
舉つて起つべし 青年我が黨。
- 五 黎明來れり、第二の開闢、
仰げよ、まさしく歴史は移れり、
世界は悔めり、この秋、この空、
太陽我等が光は騰れり。
日本、日本、輝け我が明日、
舉つて起つべし 青年我が黨。

大日本青年黨行進歌

北原白秋作詞
注 順治作曲

- 一 天に冲する火の柱
見よや東亞の我が勢力、ダン
正大、まさに躍々と
神州の意氣、雲を衝く。
ダンと往け。ダン。
- 二 往け往け今ぞ、秋今ぞ
示せ無双の我が力、ダン
體制、すでに堂々と
仁愛の熱、義に勇む。
ダンと往け、ダン。
- 三 聖上中にましますせば
歸せよ一つに我が命、ダン
- 四 光命、こゝに赫灼と
萬邦の民、みな朝す。
ダンと往け、ダン
- 五 樹てよ國家の新機構
興せ生産、我が限り、ダン
速大さらに生々と
向上の眼を、うち放て。
ダンと往け、ダン
- 五 天に冲する火の柱
騰げよ炎を我が化育、ダン
黨あり、見よや烈々と
青年の血ぞ、今たぎる。
ダンと往け、ダン。

2941

